

# 庵治石の価値

最高級銘石にかける情熱と誇り

『月刊石材 2016年3月号より転載』

庵治ストーンフェア2016



期間：6月11日(土)・12日(日)  
会場：サンメッセ香川  
主催：(協)庵治石振興会  
☎ 087-871-4170

むれ源平 石あかりロード2016



期間：8月6日(土)～9月17日(土)  
会場：高松市牟礼町  
(ことでん八栗駅から駒立岩・折り岩  
までの約1kmの旧庵治街道沿い)  
主催：同実行委員会  
☎ 087-845-2446  
(讃岐石材加工(協))

庵治石は、なぜ高いのか  
大切なのは価値を上げる努力

庵治石が、最高級銘石としての位置づけを確たるものにして久しい。そのゆえんは、一つにはやはり、研磨した石の表面に浮かび上がる独特の模様、いわゆる「斑」と呼ばれる模様が、他の石材とは一線を画す「美しい表情」として受け入れられているからであろう。

「墓地に行くやろう。墓石が立ち並ぶなかでも、斑のよう浮いた磨き上げられた極上の庵治石は、遠くからでも一目でわかるんや。表情豊かにお施主さんを迎えてくれるんやね」

関西にお店を構えるある石材店のご主人が以

前、そんな話をしてくれたのを覚えている。

「庵治石は、なぜ高いのか——」

庵治石の墓石を勧める際、お施主様から何度となく繰り返されている質問であろう。それに対してなんと答えるか。石質面の優位性、あるいは丁場開発・維持にかかる膨大なコストに対する製品化率の低さなどが容易に挙げられるが、以前、(株)オオクボエンタープライズ・大久保一彦社長はこう話したことがある。

「庵治・牟礼のみんなはそれぞれの感性でできることを考え、行動し、でもその出口のところでは一つにまとまることができません。それが庵治石材産地の強い力になっている」

価値を下げるのは誰

にでも簡単にできる。いかに価値を上げていくか、その努力を各自が続けることこそがなによりも大事——それがその言葉の真意だと感じられた。

産地では、いまこの

瞬間も、ベテランも若手も、採掘場でも、あるいは細かく分業化された工場でも、庵治石に関わる一人ひとりが、これまで庵治石の価値を築いてきた先人たちと同じく、大事に庵治石を採り、大事に庵治石の製品をつくっている。今回は残念ながらつくり手の取材を行なっていないが、ある工場社長の言葉を引用したい。

「私がいい加減な仕事をしたら、子や孫の代の恥になります。それは絶対にできません。だからウチは誰よりも手間をかけて磨いている自信があります。それはお金の問題ではなく、私のがままとするか、意地です」——庵治石にかけるその情熱と誇りは、きつと産地内どの事業所でも同じなのである。

もし仮に「庵治石は、なぜ高いのか」への返答に窮したら、ぜひ実際に産地に足を運んでいただきたい。そうすれば必ず、説得力のある答えが見つかるはずである。

そしてこれは、決して庵治石に限ったことではなく、他産地でも同じことがいえるのである。その意味で、本特集が国産銘石すべての価値を見直す機会になることを願う。

# 庵治石は充分にある。 極上品を生む誇り高き情熱

(株)オクボエンタープライズ 代表取締役  
大丁場地区採掘場 第十七代当主

大久保一彦



※本稿は、2月20日に実施された第7回庵治石ソムリエ養成制度において、大丁場地区採掘場の見学時に大久保社長が説明した内容と、個別にインタビュー取材した内容を再編してまとめています。

庵治石材産地では現在、三十三軒の採掘業者（庵治石開発協）に加盟の採掘業者があり、そのうちの九軒が、この大丁場地区で採掘しています。大丁場というのは、産地内で一番古い採掘場で、四百五十年ほどの歴史を有しています。高松城、築城や神社の造営等に石を使うということで、この山が開かれました。また高松は讃岐松平藩ですが、寛永十九年に松平様（松平頼重、讃岐高松藩初代藩主）が高松に來られ、庵治石の製品として墓石や灯籠等をつくらせています。

産地にはこの他、中丁場地区、庵治地区、野山地区のそれぞれに採掘場がありますが、いわゆる「庵治石細目」と呼ばれる石の七割から八割が、この大丁場地区から出ております。石の層もさることながら、岩盤の角度など、石の採りやすさという点でも、大丁場は群を抜いております。九軒のうち、細目を採掘するのが八軒、中目を採掘するのが一軒でございます。

庵治石は難しい  
製品出荷量は採掘量の三%ほど

庵治石をご所望されるお客様は大抵、どこか

で実際に庵治石を見られているものですが、同じ庵治石でもピンからキリまでございまして、これに適合させるのは難しいところがございます。同じ「細目」といっても、それぞれの採掘業者、あるいは丁場により、色合いや目合いが違うということがあります。私は四十年間、この庵治石を見続けていますけれども、他地区の採掘場に行くと、「きれいな庵治石やけど、こんな目のパターンがあるんやな」と驚かされることもございます。その無数にあるなかから選ぶには、経験しかございません。

いわゆる「斑」と呼ばれる、庵治石独特の美しい模様は、庵治石の全部が浮き出るものではありません。本来は、この「斑」が美しく鮮やかに浮き出ている石を指して、庵治石細目、それも極上品といわれております。

「庵治石の「斑」は消える」という俗説もございしますが、本来の「斑」に関しては、まず消えることはありません。当然、庵治石といえども、屋外にあれば非常にゆっくりと白けてきますので、その過程で「斑」がわかりにくくなることはございます。でも、雨に濡れると、「斑」

はまた浮き出てきますので、それは見ていただければわかります。

私は大石産業(株)という、庵治石専門の加工場の代表も務めていて、出荷製品は庵治石しか扱っておりませんが、正直、まだまだわからない部分がございます。庵治石はもともとキズや不純物の多い石で、言葉だけでもざっと挙げれば、「カサネ(岩盤の南北に入る山キズ)」「二番(同じく東西に入る山キズ)」「ナゼ」「ボセ」「白玉」「黒玉」など、まだまだござい



牟礼町にある墓地にて、雨に濡れ、斑が浮き出る庵治石の墓石。遠くからでもひと目でわかる。

すが、そういう呼称があるくらい切ってみないとわからない石です。

ですから、業者にもよりますが、それらを全部のけていくと、単純に言えば丁場で原石が百個採れたうち、墓石製品として市場に流れるのは、おそらく三個くらいというのが現状でございます。

### 丁場主がいう「庵治石は充分にある」

そのせいか、よくいろいろなところで「庵治石はない」という言葉を聞きますが、これに対して我々産地の人間はいま、非常に強い反発を感じております。「庵治石細目」として出荷される石は、申し上げたとおりごく一部だけです。その石を出すときに、たとえば五年に一回買われる方、一年に一回買われる方、毎月必ず買われる方のどちらを優先するか。それは当然、毎月買っていた方になります。ましてや極端に値切られますと、やはり極上の庵治石を出すことはできません。

ということはある程度、原石の出荷ルートも決まっていますので、極上品を入手できるル

トから外れたところにいらつしゃると、あくまでもそのルートの中での「最高級はこれや」という話になります。結局、**斑**が浮いている細目でも、全体の色合いや目合い、地色の濃淡によっても印象は変わりますので、そのあたりの事情が、さまざまに誤解を生む要因にもなっているといえるかも知れません。

しかし、そのような事情を知らず、ただ望むような庵治石を手に入れられない方が、「庵治石はもうない」というのは、非常に失礼な話ではないでしょうか。

これは笑えない話ですが、数年前に大阪の知り合い（業界人ではない）に、「庵治石ってもうないんやっつてな」といわれました。彼は私の素

性がある程度ご存知なのですが、私が「まだ充分にありますよ」というと、「そんなことないやろう。どこそこの石屋さんがもうないって話していたよ」というのです。

偉そうにいうわけではございませんが、この山（大丁場）は、当大久保家（榎オオクボエンタープライズで管理）の所有地でございます。約六五万平方メートルが代々、大久保家の名義になっております。現在、そのうちの南側の約二〇万平方メートルだけを九軒の丁場主に貸して採掘をいただいております。北側の四〇万平方メートル以上はまったく手つかずの状態です。いま、たぶんイノシシが四十頭以上住んでいると思われませんが、まだその子たちが食べてい

るだけの自然も残しております。

その私が「庵治石はまだ充分にありますよ」というのですが、結局、一般のお客様は、どこかの石屋さんが「庵治石はもうない」と話すことを信用するようになってしまいました。

### 『最高級銘石』とは、 供給を続けているからこそ得た称号

いままでも庵治石の価値や魅力を伝えるため、産地のみんなとも協力しながら、いろいろな事業を展開してきました。

だから、安易に「庵治石はもうない」というのは、そろそろもう看過かんができない状況になっていると感じております。業界内だけではなく、エンドユーザーからも「庵治石はない」といわれる私どもの立場を考えていただきたい。これは、たとえば、ずっと頑張っているお店に対して、「あそこはもう店を閉めた」というのと同じことではないでしょうか。それは失礼きわまらない話で、いよいよ腹に据えかねるところでございます。

逆にここ数年感じていただいていることと思





大丁場地区採掘場。雨天のため作業は休みだったが、現在、9軒の採掘業者が庵治石を採っている

いますが、若手を中心に運営する石あかりロードはもう十年以上（平成17年より）続けておりますし、最近ではA J I P R O J E C Tなど、その間にも若手の台頭が非常に活発化しているのが私たちの現状です。他産地の詳しい動きはわかりませんが、庵治・牟礼ではまだまだ若手が上を向いて活動しております。そのため「庵治・牟礼のみんなは元氣やな」という声も、実際に多くの方々に頂戴しております。

しかし、それと完全に相反して「庵治石はもうない」という話が聞こえてきます。

私がいままでに見たり聞いたりした話をまとめると、国内の各石材産地の動きに興味があると思うひと、志のあるひとは、私たちの取り組みをしっかり見ていただいていると思っております。先日の東京での「香川の庵治石」展にも、多くの石屋さんがわざわざ時間を割いて見に来てくださいました。そういう方々は「庵治石の産地は頑張っているね」といい、とりもなおさず、ご自分でも頑張っていらっしゃる方々ばかりです。

ただ、そうではないひとは、産地の動きに興

でご覧になっておりません。

味を持たず、結果、アンテナも短く、私たちの活動をまったくご存知ない。そしてそのなかの誰かが「庵治石はもうない」というと、その話を伝え聞いて頭から信じてしまう。私がそれに對して、「そんな話、誰に聞きましたか?」とお答えすると、「みんながいつている」とお答えになります。そもそも産地へ来て、ご自分の眼

でご覧になっておりませんが、庵治石はいま、多くの方々に、国産の最高級銘石と認めていただいておりますが、最高級といわれるゆえんは、やはり、私も産地が庵治石を供給し続けているからではないでしょうか。それはもちろん、産地の先人たちが頑張ってきたことの集大成であります。なによりもいまも供給を続けている。なのに、「庵治石は

もうない」といわれるのは、非常に理不尽なことといわざるを得ません。

私はいま六十二歳で、個人的にお付き合いのある友人、先輩、後輩からも、そろそろお墓の相談をされることが増えております。「墓をつくりたいけど、どうしたらええかな」というもので、私どもはメーカーですから、地元であれば面倒を見ますが、遠方の方にはアドバイスをしています。

そのとき、私はこう伝えていきます――。

「『庵治石はもうない』というようなお店では買うべきではない」

そして付け加えて、

「国産最高級といわれる庵治石が、いま採れているか、採れていないかを把握できていないようなところを信用できますか?」と。

それから、「庵治石が置いてあれば、ぜひ実際にさわってみてほしい」ともいいます。

この「さわる」ということについて、いまの石屋さん、特に若い世代の方々はわからないようになってきているかも知れません。以前は、私のところ（大石産業㈱）に来ていた石屋さんたち



【上】2月8日～9日、東京・丸の内で開催された企画展「香川の庵治石 日本の銘石と職人の手」【中】2月20日、庵治石産地で実施された「第七回庵治石ソムリエ養成制度」【下】2月17日～19日、東京・渋谷で開催された「rooms 32 GALAPAGOS」に出演したAJI PROJECT 関連記事はカラーグラビア、口絵8～12頁参照。なお、本稿掲載の写真には、庵治石ソムリエ養成制度にて撮影したのもも使用している

でも大抵、世間話などをしながら、工場にある  
庵治石を全部さわっていったものです。

人間の手の感覚って、相当に鋭いものなんです  
すよ。私の聞いた話では、東北に指先の感覚で  
〇・〇二ミリの差を判別できる磨きの女性が  
いたそうです。これは実際に砥石メーカーのひと  
がマイクロメーターで計測したというので、本  
当の話だと信じています。

ですので、手でさわると、磨きのツヤの感覚  
というものは覚えられると思います。皆さんも  
ぜひ、庵治石にさわってみてください。

### 庵治石細目の墓石を生む努力とこだわり

「ある」「ない」という点だけでいえば、極端  
な例として、納期が二週間しかないのに「極上  
の庵治石細目を」と注文されても、これに対  
しては、基本的に「ない」とお答えしています。  
大丁場の九軒すべてから石を仕入れている私の  
ところでも、通常、極上の細目なら八寸角、九  
寸角で、ひと月くらいの納期をいただいております。  
それはその一基をつくるのに一カ月かか  
るわけではございません。つくるだけであれば、

おそらく一週間くらいで出荷できると思います。

しかし、私どもは石屋さんからご注文をいた  
だく段階で、お施主様がどういう庵治石をご所  
望かをお聞きいたします。実際にサンプルとし  
て見た庵治石が近くにあれば、その横にタバコ  
の箱などを置いて写真を撮っていただき、その  
画像を送っていただくこともございます。それ  
を見れば、<sup>斑</sup>のパターンや目合いの特徴な  
どがある程度把握できますので、そのうえで山  
に原石を発注いたします。

そのタイミングで、現在、どの丁場からどの  
ような石が採れているかを把握していますので、  
基本的に三つの丁場を候補に選び、それぞれの  
石のサンプルを、その石の真んなかあたりから  
取り出してつくってもらいます。そのサンプル  
のなかから、石屋さんを通じてお施主様に「こ  
の庵治石だ」と選んでいただいてからその石で  
お墓をつくり始めます。

石を加工する際には、キズの有無をチェック  
しながら、まず大きな部材から取っていきます。  
下台を取り、次に上台を取り、サオ石を取りま  
すが、最後に前まわりの水鉢を取ると、そこに

## 想いが創る一ノ美。



一國 [Ichi-kuni]







【右】大石産業(株)工場にて、庵治石を切削する大口径と、出荷間近の洋型墓石



キズが入っていたとします。そうすれば、山へ連絡して石を取り替えます。次の石が来て、そこにもキズが出ればまた取り替えます。実際に私の工場では、この半年間で一番多かったケースで、九寸角のサオ石を九回も取り替えました。どうしても色が合わない、目が合わない、斑のパターンが合わない——つくり手として納得がいかなかったのです。

それは極端な例で、丁場にも負担を掛けるため、いつもそこまで取り替えるものではございませんが、しかしここ三年間くらいを平均すると、一本の庵治石の墓石を仕上げるのに、二〜三分分の仕事はしています。そうして全部を揃え、仮組みし、色合い・目合い・斑のパター

ンなどをすべてチェックしてから出荷しております。

庵治石にはこの過程が必要なので、どうしても時間がかかります。ですから納期は最低でもひと月はいただきたいところです。これが尺角、尺一寸角、尺二寸角と大きくなれば、さらに時間が必要になります。

これは多かれ少なかれ、産地内のどこの工場でも同じことがいえます。

### その家の格を上げるのも、お墓に携わる私たちの大切な仕事

昨今は墓石を販売するひととさまざまになり、石のことをわかっているひとが少なくなっているなど感じています。

むかしはよく、お付き合いのあるお寺の行事を手伝った帰りなどに必ず墓地に立ち寄って、自分のお店で建てたお墓を全部きれいにふいてくるといふ石屋さんが大勢いらっしやいました。そうすることで、石の経年変化などもしっかりと見ていらっしやるのですね。

お施主様がいて、その次に石屋さんがいて、



牟礼町内の墓石加工工場にて。庵治石を研磨する自動研磨機。同工場ではこだわりの研磨方法を採用し、建墓後長期間のツヤを維持する

仲買<sup>なまがひ</sup>さんがいて、そうして私どもが注文をいただくわけですが、私はこのすべての方々を、お施主様によるこんでいただくお墓を提供するための「チーム」だと思っています。産地も、仲買さんも、石屋さんも、全員がまっとうな仕事をして、お施主様にご満足いただいております。

以前は、チームとして一緒に仕事をするのが楽しく、なおかつ怖いくらいの石屋さんがよくいらっしやいました。目が利<sup>き</sup>いて、仕事の良し

悪しを見抜いて、そのうえで厳しい指摘をされる。こちらもしりりしながら仕事をして、それで納めてからしばらく経つと、「お施主様がとてもよろこんでいたぞー」と電話がある。それはもう、こちらが「そうか、やったぞー！」と（笑）。それは大きなやりがいでした。

最近では、お施主様に値段の話から始める石屋さんもいるとお聞きします。「この石が一番安いですよ」と勧めるそうです。でもそれでお施主様が本当の満足を得られるのか、私は疑問に感じます。お墓を通じて、その家の跡取りさんの顔を立てる、その家の格を上げるといふ提案をすることも、私たちお墓に携わる者の大切な仕事の一つと考えているからです。

確かに、エンドユーザーに庵治石の価値を伝えるのは難しいことかも知れません。いまはお墓に限らず、いろいろな分野で価格が優先されるようになっていきます。たとえばカシミアのセーターでも、大手安売り店で買えるものと、高級なブランド品とを同等と考える消費者がいらっしやる。それと同じことが墓石選びでもいえるかも知れません。なぜ庵治石なのか、なぜ



OOCHOUBA  
Proud home of the world's Aji stone.

銘石の郷 庵治大丁場石の会



高いのか、同じ石なら安価な外材でも同じではないか、と。

でもお墓というものは、ほとんどの方にとって身近なものではなく、お施主様は基本的に石のことなどにも知りません。だから、なぜ庵治石は高価なのか、最高級といわれる理由を、しっかりと説明していただきたい。それには実際に産地を見て、知っていただくことが大前提ですし、産地を知れば、「庵治石はもうない」

という話も出ないはず。

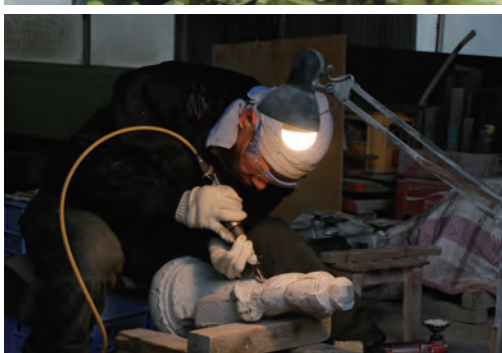
### 庵治石にかける情熱と誇り

この庵治・牟礼の産地には現在、約三百軒の石屋さんがいます。分業が進んでいますので、丸物だけをつくっている工場、役物だけのところ、文字彫り専門のところなどもございますが、そうですね、あえて誤解を恐れずというと、その中核にいて、本気で庵治石の産地を担ってい

ると自覚して取り組んでいるところでは、相当に性根しよねを入れてお墓をつくっております。それは、仮にも人様に手を合わせていただくものを、我々はつくらせていただいているという強い信念、情熱、そして誇りを持っているからです。

これは山でも同じで、この大丁場のなかにはトイレをつくっておりません。トイレのときは、丁場の職人さんにもわざわざ山を下りていただきます。どうしても間に合わないときには、端はっこで外を向いて用を足すことも仕方ありませんが、仮にも手を合わせていただく石を切り出している山ですので、そこで用を足すというのはとんでもない話なのです。

さらにいうと、大丁場では正月（二月）と五月、九月には、山の神様に感謝し、仕事をしてはいけない日が定められていて、いまま伝統として守っています。ここで仕事をさせてはいただいている以上は、自然に対する畏怖いふぶを忘れてはなりません。それを忘れると危険な事故にもつながりかねません。だから、その日は丁場の入口にお祭りしている不動明王様にお供えを持って山



【上】庵治町内の役物専門工場 【中】牟礼町内の丸物専門工場 【下】庵治町内の彫刻専門工場。庵治石材産地では細かく分業化され、専門性を高めながら、極上の庵治石製品を提供している



大丁場地区採掘場の入口にお祭りされている不動明王様。同採掘場では、1月、5月、9月に山の神様に感謝し、お供えをして、静かに過ごす日を定めている。山のしきたりである

に上がり、供物を捧げたら山を下りて静かに過  
ごします。それがこの山のしきたりになってお  
ります。

以上、生意気なことも申しましたが、本日は  
庵治石ソムリエ養成制度にご参加いただき、誠  
にありがとうございます。あいにくの雨天です  
が、私の若い時分には、雨の日に事務所にお  
ると、先代によく「お前、こんなところでなに  
よんや」と叱しかられました。「せっかく雨が降つ  
とるのに、この日に石の色を見ないでどうす

んや」というのです。

雨が降ると、石の色がよくわかります。私ど  
もでもやはり、石を見るときには水をかけます。  
だから雨の日は、実は、庵治石の一番美人など  
ころを見ることのできる日なんですよ。

最後に一言だけ付け加えますが、私は、名を  
重んじる人間です。安売りを含め、いろいろな  
ところからご相談の声をかけられることもあり  
ますが、たとえ実じゆを得たとしても、名前だけを  
利用されるような事例はお断りしてきました。

私は庵治石の価値と、この産地の誇りを守る  
立場にあり、先人から受け継いだ大丁場と庵治  
石のブランドを、産地のみんなとともにつくつ  
てきてもう四十年になります。より多くの方々  
に、お買い得なものからハイエンドの極上細目  
に至るまで、すべての庵治石を確かな情報とと  
もに適正に扱っていただき、それに携わる庵治  
石材産地の職人たちの技を認めていただくこと  
を切望いたします。